

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：33931

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520209

研究課題名(和文)古今和歌六帖の本文と享受に関する総合的研究

研究課題名(英文)Research on text and relish of Kokin-Waka-Rokujo

研究代表者

黒田 彰子 (Kuroda, Akiko)

愛知文教大学・人文学部・教授

研究者番号：30333181

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、平安中期に頃に成立したとされる類聚歌集、古今和歌六帖の校本作成をめざしたものである。当該歌集の伝本は、近世初期の写本群、及び刊本があるのみで、中古、中世の写本が伝存しない。しかし歌学書等から蒐集できる逸文は、必ずしも現存伝本と一致せず、また、収録歌及びその配列にも違いがある。そのため本研究では、現存写本群の中から十二本を選び、さらに刊本を加えた校本を作成し、肝要な情報である注記も正確に再現することで、古今和歌六帖本文の基礎資料を作成した。その結果は、最終年度に、データベースとして電子媒体で資料を公開するとともに、論文集として『古今和歌六帖研究』、を刊行した(平成22、23年度)。

研究成果の概要(英文)： This study intended to make a compilation of varying texts of Kokin-Waka-Rokujo, worked out in middle period of Heian. The existing texts of such work are transcriptions and prints in Edo period. That text not necessary conforms to old fractions, finding out in the texts of Waka, such as Kigo-syo, Toshiyori-Zuino, Waka-Domosyo.

For these reasons, we selected 12 texts and a book, copied or printed in Edo period, and made a compilation of varying texts with vast numbers of insertions. This accomplishment put on view in electron medium in the last year of this scientific research fund, and as articles, we issued in Kokin-Waka-Rokujo Kenkyu, Vol.1 and Vol.2, published in the 22 and 23 years of the Heisei era.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：古今和歌六帖 校本 伝本研究 歌学書 歌集 逸文 古筆切

1. 研究開始当初の背景

現在公刊されている古今和歌六帖の本文と、中古、中世の歌学資料の間に懸隔があり、資料としての信頼性に疑問がある。この問題を解消するための、基礎研究としての本文研究が必須である。

現在公刊されている古今和歌六帖は、新編国歌大観第五巻所収本(書陵部桂宮本)の他、影印資料として、永青文庫本等に限られる。伝本研究の観点から、極めて重要な寛文九年版本は、一般にはほとんど見るできない状態であり、近世歌学の観点からも、これを公刊することの意義は極めて大きい。

编者については、伝承される编者に、紀貫之、あるいは貫之女、具平親王、兼明親王の名があがっているが、いずれも伝承の域を出ない。近時、古今和歌六帖编者として、源順を中心とする文化圏が注目されている。類聚和歌集としての古今和歌六帖の体裁、またその配列等を考慮すると、極めて注目される論である。こうした编者の問題を検討するためにも、基礎資料としての古今和歌六帖の本文が、中古においていかなるものであったかを、逸文、古筆切を中心とする歌学資料から検討する必要がある。

公的な資料としての勅撰和歌集史を補完するものとして、古今和歌六帖のような類聚歌集が利用されてきたことは、枕草子、源氏物語等に、多くの六帖歌が引用されていることから明かである。古今和歌六帖の享受史が検討されなければならない理由もそこにある。注釈史の立場からも、古今和歌六帖を検討する必要があるとともに、享受史を検討することにより、逆に古今和歌六帖本文の確定に至る可能性もある。

2. 研究の目的

広く現存する写本、刊本を博搜し、それに基づいた正確な校本を作成する。さらに、中古、中世における、古今六帖の享受の実態を、研究代表者、連携研究者それぞれの専門研究の観点から考察する。

3. 研究の方法

(1) 現存する写本、刊本の所在確認、及び文献調査。

(2) 確認しえた伝本の素性を検討し、系統を検討し、伝本論を構築する。その上で、校本作成に使用する伝本を選択する。

(3) 選択された伝本のデータベースを作成する。作成の際は、すべての異本注記、書き入れ等を正確にデータ化する。

(4) (3)に基づき、校本を作成する。

(5) 校本作成の過程で知り得た情報、あるいは享受に関する論考は、成果報告書『古今和歌六帖研究』()に収録する。

4. 研究成果

(1) 最初の作業として、古今和歌六帖の伝本調査に相当時間を費やした。国内に伝存する

伝本は相当数あるが、そのうちの多くが、版本を書写したものであり、その特定には、前提としての版本研究が必要である。本研究を開始する前提として、版本の実態については、相応の研究成果を得ていたため、これに基づいて版本を書写した伝本を校本から除外することとした。版本書写の実態については、古瀬雅義の一連の論考がある。なお、版本研究の過程で、版本本文及び、多数の書き入れ注については、近世和歌研究の課題とすべき問題が多数確認された。これについては、今後の課題であるとともに、校本を公開することが当該研究に資するものと考えられる。以上の伝本調査の結果については、年に一度、研究会を行い、各伝本の実状についての報告、及び、審議を行った。

(2) 上記の過程で、本研究に先行して行われていた「文字列データ解析システムの構築と平安中期歌語生成に関する研究」(基盤研究(C)、研究代表者福田智子、課題番号19500217)において一部着手されていた古今和歌六帖伝本データの成果を受け、これを校本データに取り込む際のシステム上の問題点を検討した。その結果、校本データ作成に関しては、基礎データ完成後、これを統合するためのシステム開発を、古典ライブラリー(代表者、山口守義)のシステム部門と協議することとした。

(3) 伝本調査の過程で、記録には残されているものの、所在不明の伝本がいくつかあることが明らかになった。その所在調査の結果、今回校本に使用した諸本のうちの一本を残し、所在が明らかになった。その一本は、故大久保正氏旧蔵本であり、近世初期の書写の一面をよく表す伝本であるため、国文学研究資料館データベースに収められるマイクロデータを使用して、校本作成の一本とすることとした。

(4) 今回校本に使用した13本は、本文系統上不可欠の伝本であるが、校本には採用しなかった伝本のうち、伝来等に注目すべき点のある数本については、詳細な解題を作成した。特に、所在未確認であった旧阿波国文庫蔵桃園文庫本の調査ができたことは収穫であった。当該伝本については、石澤一志が調査の上、詳細な解題を執筆した。しかし、なお、現在も久曾神昇氏旧蔵本等は所在不明であり、引き続き資料の発見に努めたい。

(5) 中古、中世の本文状況については、古鈔本がないため、日比野浩信が、現在確認出来る古筆切一覧を作成したこのうち、近年新たに発見されたものは、伝慈円筆白砂切の連れ一葉等である。一覧は、古今六帖研究に掲載したが、現存古筆切の範囲でも、古今和歌六帖の本文が、現存本とは相当の異同があることがわかる。古筆切については、今後引き続き蒐集に努める必要がある。

(6) 同じく、歌学書、歌集等に見える本文については、それぞれの専門の見地から考察を行った。特に、藤原清輔の袋草紙に書かれた

一文から、現存古今和歌六帖とは系統を異にする伝本の存在を想定する説が提出されており(奥村恒也氏他)、その当否については、全く言及されないままであった。この研究は、近世における契沖を始発とする逸文研究に基づくものであり、古今和歌六帖伝本研究の上から、看過できない問題である。そのため、契沖以下の研究成果を、逸文蒐集の方法、使用した資料の問題点を通じて再検討した結果、現存古今和歌六帖はすべて一系であり、系統を異にする伝本は存在しなかったであろうとの結論を得た。

(7) 以上の成果のうち、解題、伝本論、先行研究等は、主として『古今和歌六帖研究』、平成23年3月31日、(平成22年度成果報告)、『古今和歌六帖研究』、平成24年3月31日、(平成23年度成果報告)に発表し、個別のテーマに関しては、研究代表者、連携研究者が、それぞれの場で論文化した。

(8) 校本作成にあたっては、注記、異本注記、及びその位置情報にわたるまで、伝本を忠実に再現するデータを作成した。本課題の最大の目的は、正確な校本の作成であるから、連携研究者、研究協力者全員がこの作業を行い、最終的に、13本の伝本に基づく校本を完成した。伝本毎の基礎データを校本データの形にまとめるまでに、ほぼ二年の時日を要した。もっとも困難であったのは、異文注記であり、当該注記は、その位置が重要な情報となるため、精査を重ねた。このデータは、電子媒体により、関係する研究者に配布した。(『校本古今和歌六帖』、平成25年3月31日、(本科研最終報告書、古今和歌六帖校本データベース、及び伝本略解題収録)。最終的に、現存伝本は一系であるものの、その中で三類に分かれることが判明した。校本データベースは、この観点から作成したが、なお、中間的な形態を示す伝本が存在する。このことは、版本の研究をさらに進めることによって、ある程度の結論を得られるのではないかとの見通しを得ている。版本がいかなる伝本に拠っているのかは、遺憾ながらもその全貌は把握できない。この問題の解明には、近世歌学の観点からの研究が不可欠であり、さらに、近世において、和歌資料本文がどのような手続きを踏んで決定されたか、すなわち、近世における文献学上の手続きの解明が不可欠である。少なくとも、版本古今和歌六帖本文については、近世万葉学の影響が大きいであろう事は容易に想像できる。この点については、契沖を始発とする万葉研究を考慮しなければならない。この問題については、古今和歌六帖が、まず万葉研究の資料として活用されたと実態を踏まえる必要がある。但し、その研究は、対象が万葉集と古今和歌六帖に限定された傾向があり、それが古今和歌六帖本文の研究の障碍となってきた。本研究においては、中古・中世の歌学資料を視野に入れることによって、その限界を打ち破るべく努めたのであり、その根幹資料としての写本群の

校本化が、今後の研究の礎となることを期待している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計21件)

黒田彰子・大秦一浩、和歌童蒙抄輪読十一、文藝論叢81、査読無、2014、pp33-59.

黒田彰子・大秦一浩、和歌童蒙抄輪読十、愛知文教大学論叢16、査読無、2013、pp1-43.

黒田彰子・大秦一浩、和歌童蒙抄輪読九、文藝論叢82、査読無、2013、pp80-100.

黒田彰子・大秦一浩、和歌童蒙抄輪読八、愛知文教大学論叢15、査読無、2012、pp1-68.

黒田彰子、古今和歌六帖伝本に関する覚書、古今和歌六帖研究、査読無、2012、pp.39-63.

黒田彰子、広本古今六帖考、愛知文教大学比較文化研究、査読有、第12巻、2012、pp.1-17.

石澤一志、諸本解題・東海大学図書館蔵池田亀鑑旧蔵阿波国文庫本、古今和歌六帖研究、査読無、2012、pp.3-8.

蔵中さやか、諸本解題・田林義信氏蔵本、古今和歌六帖研究、査読無、2012、pp.9-12.

古瀬雅義、諸本解題・ノートルダム清心女子大学蔵黒川本、古今和歌六帖研究、査読無、2012、pp.13-18.

日比野浩信、古今和歌六帖の古筆切、古今和歌六帖研究、査読無、2012、pp.19-38.

景井詳雅、『古今和歌六帖』と『人麿集』四類本非万葉歌か群の一つ「B歌群」について、古今和歌六帖研究、査読無、2011、pp.1-20.

黒田彰子、和歌童蒙抄はいかなる歌学書か、和歌文学研究102、査読有、2011、pp13-25.

古瀬雅義、黒川文庫蔵『古今和歌六帖』写本と寛文九年版本の書写関係について、写本の錯簡を補う貼紙から見えてくること、古今和歌六帖研究、査読無、2011、pp.21-45.

濱中祐子、田林千尋、『古今和歌六帖』参考文献目録、古今和歌六帖研究、査読無、2011、pp.46-63.

福田智子、順百首の表現摂取 先行歌集・歌合との関わりと『古今和歌六帖』、文化情報学6-1、査読無、2011、pp1-13.

黒田彰子・大秦一浩、和歌童蒙抄輪読七、愛知文教大学論叢14、査読無、2011、pp1-56.

福田智子『古今和歌六帖』出典未詳歌注 積稿・第六帖(四) 薄・篠薄・萩・蘭、文化情報学6-1、査読無、2011、pp24-41.

古瀬雅義、『古今和歌六帖』享受の方法

- 「言はで思ふ」歌を通して見た『枕草子』との位相、『源氏物語の展望』10(三弥井書店)、依頼原稿、2011、pp165-195.
福田智子、藤井翔太他7名。『古今和歌六帖』出典未詳歌注積稿 第六帖(三)山吹・撫子・秋萩、文化情報学 5-1、査読無、pp14-32.
福田智子、『古今和歌六帖』内閣文庫蔵和学講談所印本における書き入れ「六」をめぐって 第一帖を中心に、文化情報学 5-1、査読無、2010、pp1-13.
- 21 古瀬雅義、黒川文庫蔵『古今和歌六帖』写本の底本は寛文九年版本か 下冊の錯簡部分と貼紙の記述から、『国語国文論集』40、査読無、2010、pp.1-12.

〔学会発表〕(計1件)

福田智子、『古今和歌六帖』の写本・版本間の本文異同について 万葉歌を中心に、中古文学会平成22年度秋期大会、2010年10月3日、於立命館大学衣笠キャンパス

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田彰子(Kuroda Akiko)

愛知文教大学・人文学部・教授

研究者番号：30333181

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

中村 文(Nakamura Aya)
埼玉学園大学・人間学部・教授
研究者番号：10337660

蔵中 さやか(Kuranaka Sayaka)
神戸女学院大学・文学部・教授
研究者番号：80309426

古瀬 雅義(Furuse Masayoshi)
安田女子大学・文学部・教授
研究者番号：60238681

福田 智子(Fukuda Tomoko)
同志社大学・文化情報学部・准教授
研究者番号：50363388

石澤 一志(Ishizawa Kazushi)
国文学研究資料館・特任助教
研究者番号：30507752

久保木 秀夫(Kuboki Hideo)
鶴見大学・文学部・准教授
研究者番号：50311163

海野 圭介(Unno Keisuke)
国文学研究資料館・准教授
研究者番号：80346155

日比野 浩信(Hibino Hironobu)
豊橋技術科学大学・非常勤講師
研究者番号：40444426